

ほんの木 よい本を広く社会に

4月新刊

23日新刊搬入

# 新版詩集 風葬

脳軟化症の祖母を一人で1年11か月看病。

認知・看病・祖母への想いをまとめた30編の詩集。

自宅での介護、介護医療の現場に関わる方にもおすすすめ。



今井啓子 著

本体1800円（税別）

A5判・上製・112頁

ISBN978-4-7752-0109-1

## 風葬十

——おばあちゃんのお菓は

ぼくたちにやらせて

赤い菓 青い菓 白い菓

菓が六つ

子どもたちが六人

ひとつずつもらって

ひよいとほうりなげます

首をのぼし

口をまるく

赤 青 白

みいろの虹

まるい口にかかり

子どもたちの歓声

口をもぐもぐ

目をしろくろ

あなたは虹を食べてるのね

（本文より）

あとがきより

祖母の看病をしていた日々、まだ介護保険制度は存在していなかった。存在していたとしても、私は同じように看病したと思う。

健康な祖母と過ごした日々よりも、病んだ祖母と過ごした時間のほうが、私には豊かな色彩を帯びていたと、今も思われる。それは、身心ともに疲れ切り、途方にくれ、また行き届かないと悔いることが多かったにもかかわらず、いやそれ故にであろうか。この豊かさはどこから来たのか、今もよく分らないが、本質的には人間が人間を選別することができない、選別を拒否する全体性のもつ豊かさであろうか。それは、私のなかに今も存在する優生思想の残滓（ざんし）を打ち碎き、真の自由へ到る豊饒（ほうじょう）の闇のように思われる。

著者プロフィール 今井啓子（いまいけいこ）

大阪に生まれる。一橋大学大学院法学研究科修士課程修了。

詩集『冬の蕃蔽』『逆瀬川』

『介護の当事者の方にぜひ読んで欲しい』編集担当より

壮絶な介護の様子が、淡々と30編の詩で綴られています。初めはインパクトが強すぎてとても読み切れない内容かなとも思いました。でも、じっくり読んでいくと人間の本質をととてもわかりやすく現していて、心が洗われます。

先日映画『キセキの葉書』（阪神・淡路大震災から半年後の兵庫県西宮市を舞台に、重度の障害がある娘と認知症とうつ病を併発した母親を抱える主婦の姿を描いたドキュメント）を見ましたが、メッセージが似ていると感じました。

フリー入帖 返品了解は小社営業、高橋がお受け致します。ぜひ、平積みでの展開をお願いします。

FAX 03・3291・3030

〒101-0047 東京都千代田区内神田1の12の13  
第一内神田ビル2階 TEL 03(3291)3011

## 新版詩集 風葬

今井啓子 著

定価：本体1800円（税別）

ISBN978-4-7752-0109-1

注文書

番線印

ご担当（ ）

ご注文数

（ ）冊

よい本広く社会に  
ほんの木